



福島イノベーション・コースト構想 について

令和5年8月24日

福島県 福島イノベーション・コースト構想推進課

浜通り地域等は、震災と原子力災害により働く場を喪失。
地域の復興を実現するためには、
前提となる福島第一原発の事故収束を進めながら、
新たな産業基盤の創出が求められている。

浜通り地域等の失われた産業を回復するため、
新たな産業基盤の構築を目指す**国家プロジェクト**

福島イノベーション・コースト構想

自立的・持続的な産業発展の実現と
その効果の県全体への波及



福島イノベーション・コースト構想とは

- 6つの重点分野を位置づけ、福島ロボットテストフィールド等の拠点整備を含めた**主要プロジェクトの具体化**に加え、**産業集積の実現、教育・人材育成、交流人口の拡大などに向けた取組**を進めている。

6つの重点分野 (主要プロジェクト/拠点整備・研究開発等)

I 廃炉

国内外の英知を結集した技術開発

廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「極葉遠隔技術開発センター」



II ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積

陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した「福島ロボットテストフィールド」



III エネルギー・環境・リサイクル

先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立

再生可能エネルギーの導入促進、連系する共用送電線を整備し導入を加速化



IV 農林水産業

ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

ICTを活用した農業モデルの確立
「トラクターの無人走行実証」



V 医療関連

技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

「医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター」



VI 航空宇宙

「空飛ぶクルマ」の実証や関連企業を誘致

「航空宇宙フェスタふくしま」



実現に向けた取組

産業集積

企業誘致、地域内外企業のマッチング、新たな製品開発等への支援を推進

教育・人材育成

浜通り地域等の未来を担う若い力を育てるべく、教育機関と連携した人材育成を推進

交流人口拡大

地域と連携して新たな魅力を創造

情報発信

構想の認知度アップで参画を促進 / 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営

生活環境整備

安心な暮らしに必要な環境を整備

産業集積に向けた取組

開発・実証研究



事業化支援



新産業創出
産業集積

企業立地



起業・創業



マッチング



企業の呼び込み



交流人口



人材育成



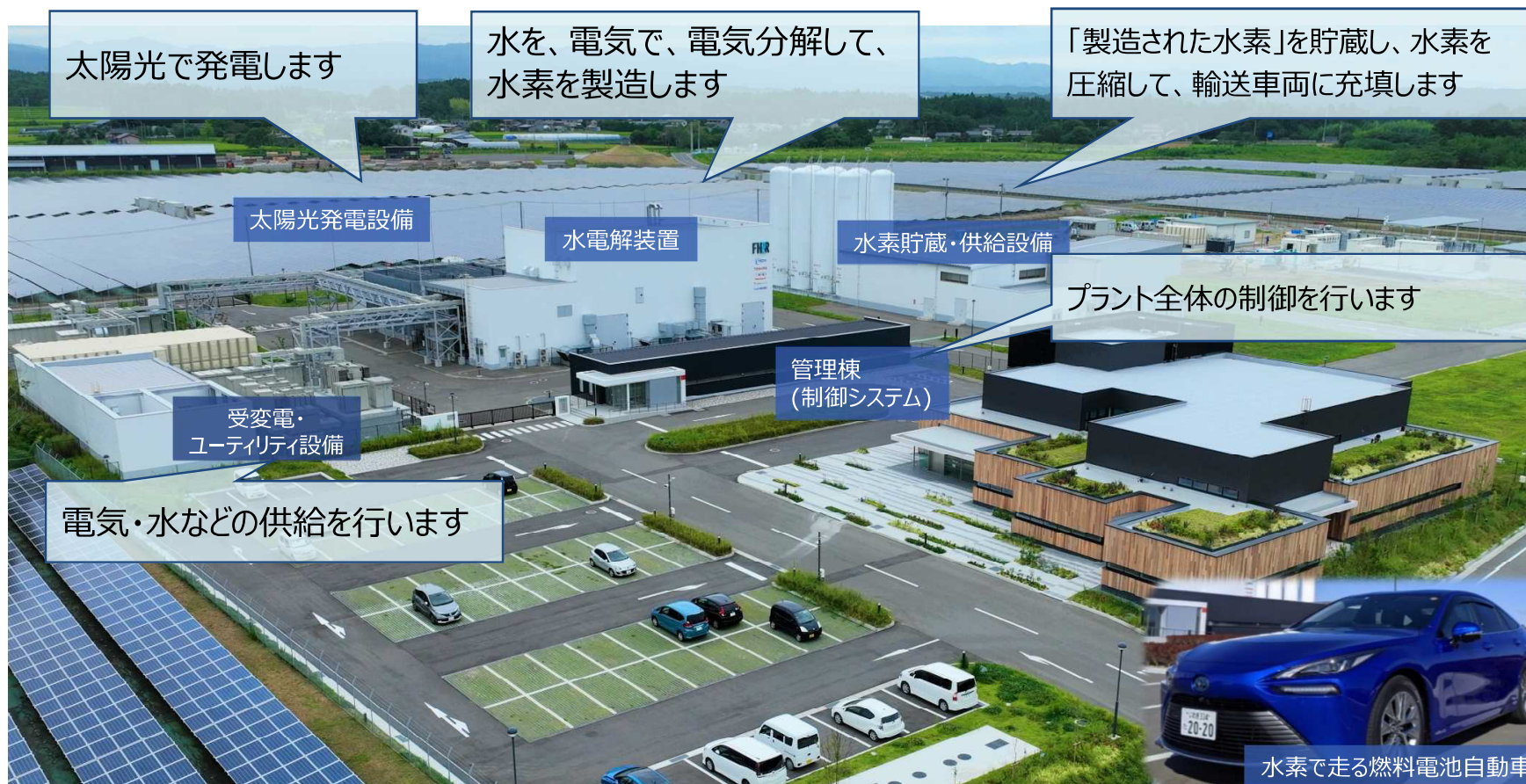
福島イノベーション・コースト構想拠点の例

- **福島ロボットテストフィールド** [南相馬市・浪江町] ～世界に類を見ない実証環境～
 - インフラや災害現場などの実際の使用環境を再現した「**全21施設**」



■ 福島水素エネルギー研究フィールド [浪江町] ～世界有数の再エネ由来の水素製造拠点～

- 太陽光発電で水素を製造し、系統電力の需給バランス調整機能について実証。
- 生み出された水素は「道の駅なみえ」や「Jヴィレッジ（楢葉町・広野町）」、「あづま総合運動公園（福島市）」などで活用。



■ Fukushima 12市町村移住支援センター [富岡町]

交流人口拡大

- 浜通り地域 12市町村への移住・定住を促進するため、
2021年7月に Fukushima 12市町村移住支援センターを設置（運営は福島イノベ機構）

12市町村への移住者

2020(R2) : **155**世帯 **213**人
2021(R3) : **326**世帯 **436**人
2022(R4) : **427**世帯 **603**人

移住求人
エントリー数(R5.2末)

累計 **1,654**名
R4 1318名
／目標800名（年間）

R4ツアー申込数
（募集は160名）

796名
／目標240名（8回）

R4イベント(※)
参加者数

474名
／目標210名（8回）



未来
ワーク
ふくしま



■ 東日本大震災・原子力災害伝承館 [双葉町]

情報発信

- 複合災害の記録と教訓を収集・保存するとともに、調査・研究し、展示、研修を行う情報発信拠点「東日本大震災・原子力災害伝承館」を双葉町に整備。2020年9月20日オープン。
- 開館以来の累計入館者数が2023年6月には20万人を達成。
福島イノベ機構では、同館の指定管理を2020年4月より受託（5年間）。



- 開館時間：9:00～17:00（最終入館16:30）
- 休館日：火曜日・年末年始（12/29～1/3）
- 入館料：大人 600円 小中高 300円
大人団体（20名以上）480円
小中高団体（20名以上）240円

※入館料は1名あたりの金額。教育活動での減免制度有。

複合災害を知る、学ぶ



複合災害の話を聞く、共感する



被災地へ行く、体感する



複合災害を考える、教訓を得る



※「収集・保存」「展示」「研修」のほか、「調査・研究」についても体制整備を進め、2022年4月、上級研究員・常任研究員からなる「調査・研究部門」を本格的に立ち上げ。

イノベ構想の主な拠点と中通りや会津地域での取組例

①花き等の新たな生産振興
川俣町のアンズリウム栽培

②福島水素エネルギー研究フィールド

③医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター 浜通りサテライト

④水産資源研究所
⑤水産海洋研究センター

⑥大熊分析・研究センター（大熊町）
⑦廃炉環境国際共同研究センター国際共同研究棟（富岡町）
⑧楢葉遠隔技術開発センター（楢葉町）

⑨環境制御型施設園芸の導入推進
大熊町のイチゴ栽培

⑩東日本大震災・原子力災害伝承館

⑪福島ロボットテストフィールド

⑫福島国際研究教育機構 (F-REI)

⑬避難地域等の再エネ導入促進
南相馬市鹿島区の風力発電所

⑬ 楢葉遠隔技術開発センター

中通りや会津地域での取組例

○人材育成

浜通りの高校のみならず、実業高校については県内全域を対象に、イノベ構想を担う人材を育成。

○実用化に向けた研究開発

中通り・会津地域の企業が連携し、イノベ地域の企業が求める技術・製品を提供したり、共同開発を行っている。

○福島イノベ倶楽部

ものづくり産業のみならず、サービス業や輸送・通信業といった多様な業種間の交流を目的として、2020 (R2) 年2月に発足。現在、県内外の160社・団体が参画。